

## 当院における在宅血液透析（HHD）の普及への試み

### ～介助者の重要性～

長崎腎病院

植木秀一 田賀農恵 中山美季 羽田鮎子 佐藤泰崇 林田征俊 吉田衣里子  
久保純子 白井美千代 丸山祐子 澤瀬健次 船越哲

#### 【背景】

HHD は施設透析と比較すると様々な利点がある一方、教育・経費等の問題により普及は遅れている。当院でも 10 年前より取り組んでいるが、現在 7 名（うち 2 名指導中）に留まっている。HHD 移行への難関のうち、過去には自己穿刺が第一の要因であったが、最近では介護者の確保がこれを上回っている。

#### 【目的】

当院の外来維持透析患者へ HHD に関する意識調査を解析し、今後の普及活動へ活かす

#### 【対象・方法】

対象は当院の外来維持透析患者 219 名、直接聞き取りで意識調査を施行した。

#### 【結果】

透析歴が浅い患者ほど HHD に興味がある傾向であった。導入を躊躇する理由としては、介助者の確保・トラブル時の対応・経済面が多く、約半数が介助不在の理由であった。当院で施行している HHD 患者のうち 2 名の介助者も 80 歳代の母親であり、HHD への不安感が多く聞かれた。

#### 【考察】

透析患者は独身独居が多い傾向にあり、介助者不在で HHD ができない患者が多くいる。プライバシーに抵触するため介入しにくいのが、介護者の確保・配慮により一部の患者は HHD へ踏み出せるのではないかと推測された。